

富岡製糸場を愛する会

代表者	高橋 伸二
所在地	〒370-2316 群馬県富岡市富岡 1126 しのもめ信用金庫 総合企画部内
設立年月日	1988年(昭和63年)
URL	http://www.silkey.e-arc.jp/

【設立趣旨】

富岡製糸場は明治5年に明治政府が国の命運をかけて建設した官営模範工場で、その姿を現在までほぼ完全な形で残しています。また、「富岡製糸場と絹産業遺産群」として、群馬県内の他の遺産群とともに世界遺産登録へ向けた運動が進められています。当会は設立目的を「富岡製糸場の歴史的、文化的、産業的な遺産価値を認め、これを愛護する者をもって組織し、富岡製糸場について共に学び合いながらその輪を広げることを目的とする。さらに『富岡製糸場と絹産業遺産群』が、世界遺産に登録されることを期待し推進するものとする」と定めています。

【沿革】

当会は富岡製糸場が操業を停止した翌年の1988年(昭和63年)、富岡製糸場の価値を学び市民に伝えることにより、富岡製糸場を活かした地域の活性化を目的に、約20名の有志が市内外・各地で学習会・講演会を継続的に行っていたことに端を発します。有志たちは近代産業の発展の礎といえる地元の貴重な財産を風化させないために、「地元市民が富岡製糸場の価値をおろそかに考えることなく、富岡製糸場を核として地域の文化・経済の発展につなげられないか」との思いから、富岡製糸場の価値を伝え、市民の知恵を結集していくことを目的に「富岡製糸場を愛する会」が発足いたしました。

2003年(平成15年)、群馬県の世界遺産登録への推進の発表を受け、同好会的な愛護活動から、世界遺産登録支援活動へと方向を明確化し、現在の「富岡製糸場を愛する会」が誕生します。2004年(平成16年)、しのもめ信用金庫が地元振興支援として会の事務局を務めることとなり組織体制が整備され、2006年(平成18年)に国指定重要文化財に指定、2007年(平成19年)1月にユネスコ世界文化遺産暫定リストに登録された以降会員数も飛躍的に増加しています。平成21年3月現在、個人会員1,264名・法人会員55社で構成されています。

【活動目的】

当会は趣旨に賛同する人であれば誰でも入会でき、自主財源で活動している市民団体です。また、地域住民の世界遺産登録運動への意識を高めようと、様々な活動を富岡製糸場内で行うことで、歴史的・文化的価値を体感してもらい、地域住民の意識の感化“きっかけ”を提供したく活動しています。世界遺産登録が無事に成し遂げられることを願い、最終的には富岡製糸場を利用活用した素晴らしい郷土が開けていくことを活動の目的としています。

【活動内容】

① 富岡製糸場の歴史的・文化的価値の啓蒙・普及

当会の再編成時に行われた意見交換会「富岡製糸場-世界遺産への道のり(国立科学博物館清水慶一氏講演)」を皮切りに、数々の学習会を開催するほか、市内外のイベントに参加して同場の価値を解説しています。また、中高生にも理解しやすい啓発用“まなびパンフレット”やDVDを作成するほか、同場に関する詳細なホームページを開設、更新しています。

② 養蚕施設見学会の実施

地元の養蚕・絹織物に関する理解を深め、地域の歴史を体感するため、現在も操業中の碓氷製糸や日本絹の里、桐生織物記念館、島村養蚕農家群等への見学会を実施しました。世界遺産にはこれらの「絹産業遺産群」もリスト登録されており、理解の必要性とともに相互交流も活発化しています。また、平成21年は横浜港が開港して150周年を迎える節目の年ということで、6月に開国博期間中のイベントへの協力と施設見学を実施しました。富岡製糸場で製造された生糸が日本の生糸貿易を支え、本県出身の横浜商人たちの手を介し、横浜港からフランスをはじめとする世界各国へ輸出されるという歴史を顧みることができました。

③ 製糸場内の清掃作業

2006年(平成18年)から月に1回、20~30名で製糸場内を清掃しています(写真1)。他の事業で得られた収入がこの清掃用具購入に充てられ、現在では活動を知った会員外の方々も作業に参加しています。

④ 製糸場を利用したイベントの企画・運営

富岡製糸場をもっと市民に身近なものにしようと、場内での各種イベントを企画し、運営しています。平成19年には陸上自衛隊第12旅団音楽隊による演奏会、平成20年には東繭倉庫内において田村貞男氏講演会&シャンソンコンサートを行いました(写真2)。平成21年4月には製糸場内で初の観桜会が開催され、場内において着物ファッションショーを行い、好評を博しました(写真3)。また、平成21年10月には、東繭倉庫内での長谷川きよしシャンソン・シルクコンサート&佐藤好祐氏シルク講演会を予定しています。

⑤ 新たなまちづくりへの参加

富岡製糸場が暫定リスト登録後、観光客が急激に富岡市へ訪れています。行政においては、市営駐車場、まちの駅、公衆トイレ等のハード面の整備が進められています。

ソフト面では地元商工会議所が中心となり、富岡市を広く全国に紹介し、知名度向上、イメージアップを図り観光客の誘致拡大と受入態勢の整備促進に必要な事業を市内外の団体・企業等と協働して行い、活性化に繋がようと「とみおか観光まちづくり推進協議会」が立ち上がり当会からも会員が参加しています。今後、富岡製糸場利活用と並行した「まちづくり」についても活発な議論の展開が期待されています。単に観光客を対象としたまちづくりではなく、そこで暮らしている人たちが「元気」を持続できることが、中心市街地はもとより、周辺地域の原動力となって、地域経済の活力になることを念頭に置き、当会も積極的に協力、参加をしていきます。

【活動上の課題と今後の展望】

今後は、より多くの市民自身が「富岡製糸場と絹産業遺産群」の価値を深く理解し愛着をもつためにはどのような活動を行うべきなのかを考え、広く関心を持ってもらうための教育啓発活動や事業展開を更に行わなければなりません。また、長い目でまちづくり・地域振興と文化遺産の保存を両立させることが大目標です。富岡製糸場の整備活用計画策定により活用がいつそう具体化を増すなか、安心できる世論形成のリーダー的存在でありたいと地道な市民活動を継続していきます。



写真1 清掃活動



写真2 シャンソンコンサート



写真3 観桜会